

林業成長産業化で 地域活性！

平成30年度林業成長産業化地域の取組の分析・評価等に
係る調査委託事業報告会

平成30年度林業成長産業化地域の取組評価事業共同企業体

<代表>



一般社団法人日本森林技術協会

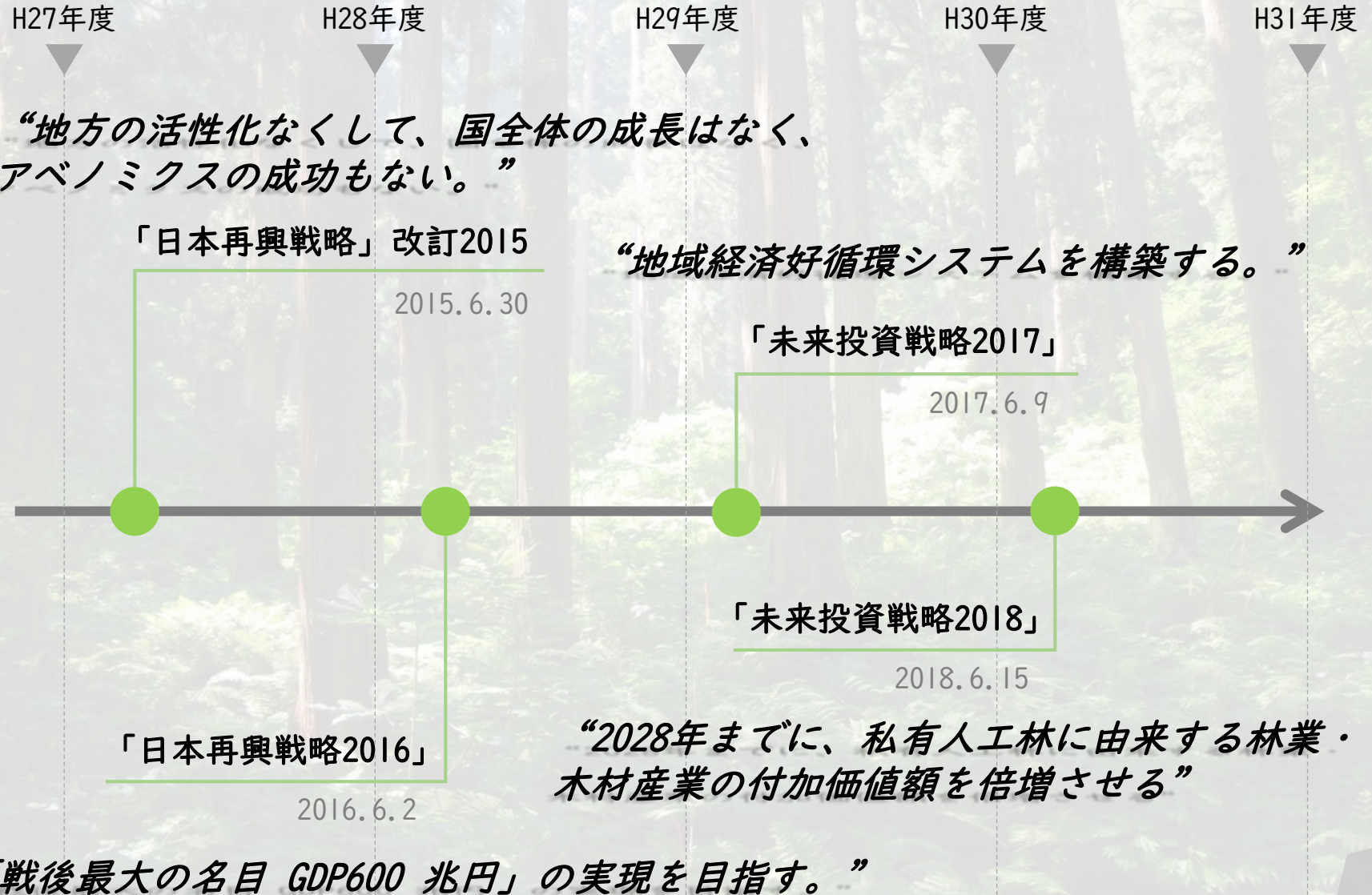
吉田 城治

『林業成長産業化』とは

“林業及び木材産業を安定的に成長発展させ、山村等における就業機会の創出と所得水準の上昇をもたらす産業へと転換すること”

「森林・林業基本計画」(平成28年5月)

林業成長産業化に対する政府の動き



林野庁による支援の開始

“「林業成長産業化」を実現するトップランナーを創出するため、地域オーダーメイド型のソフト対策を支援”

「次世代林業基盤づくり交付金」林野庁(平成29年度)

日本全国の地域を選定

(〇〇都道府県)〇〇地域

29年度選定地域

(〇〇都道府県)〇〇地域

30年度選定地域

区分	H29	H30
北海道	1	1
東北	3	1
関東	1	1
中部	3	2
近畿	1	1
中国	2	3
四国	2	1
九州	3	2
計	16	12

28



多様性に富んだ取り組み

都道府県	地域名	目標	取組項目
北海道	網走西部流域地域	豊富な森林認証材を活かし、森林認証材を使うことで企業イメージを高めようとする首都圏の企業に安定的に供給する体制を構築することにより、山元に利益を還元	首都圏における認証材の環境価値の創出、森林認証を活用した地域材ブランディング、Woodコーディネーター(仮称)制度の創設等 【計14項目】
秋田県	大館北秋田地域	秋田スギのブランド力を活かし、産学官協働で新たに家具等の付加価値の高い商品を開発・販売をすることで地域材の需要を増やすことにより、山元に利益を還元	参加者協議会の設立・運営、林業従事者雇用創造プロジェクト、主材・再造林一貫作業システム推進プロジェクト等 【計11項目】
山形県	最上・金山地域	ICT等最新の技術を活用した森林データベースを活用して、正確な立木評価と生産性の高い伐採計画により森林所有者に主伐・再造林を提案し、山元に利益を還元	森林ビッグデータ基盤整備、デジタル情報更新に係る整備、ICTを活用した林業の実践及び評価・検証等 【計17項目】

取組のトレンド

生産



1	再造林対策	71%
2	意欲と能力のある林業経営者の育成	68%
3	新たな森林管理システムによる経営管理の集積	64%
4	高性能林業機械の導入支援	57%
5	重点的な路網整備	54%
6	レーザ計測等による高精度森林資源情報整備	43%

加工・流通



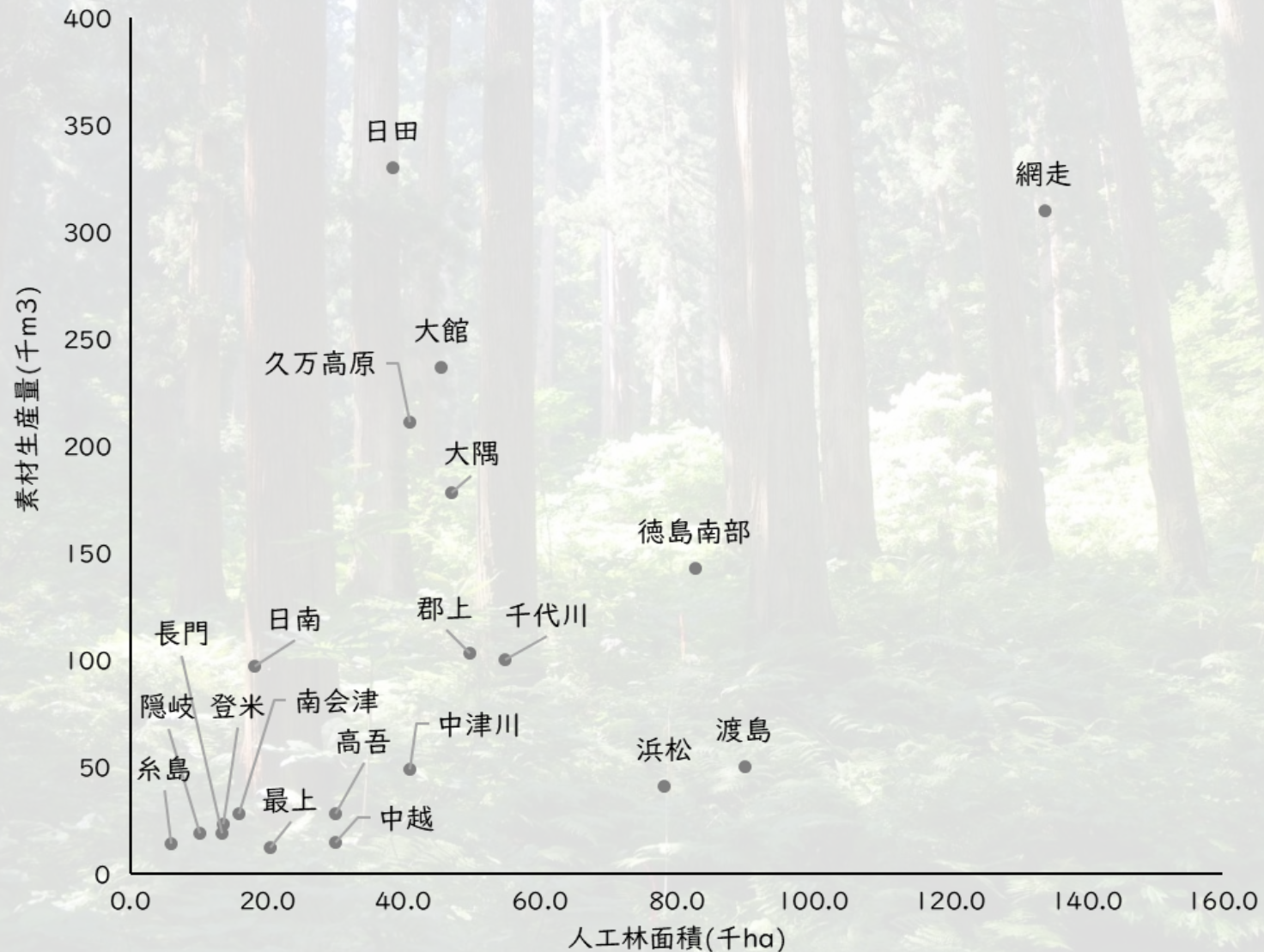
1	製材工場、合板工場等の大規模化・高効率化	32%
2	大径木の加工体制構築（設備導入等）	25%
1	需給情報の共有のためのICT等新たな技術の活用	71%
2	簡素で効率的なサプライチェーン構築/コーディネータ育成	54%

利用



1	企業・ビルダーによる国産材の使用方針の策定、公表、実施／利用の普及・定着	50%
2	製品ブランド化（認証材・地域産材・JAS材等）	43%
3	バイオマス利用の促進に向けた地域内エコシステムのモデル構築	39%
4	技術開発・部材品質の向上	29%
5	中高層建築物及び低層非住宅の拡大方策	29%

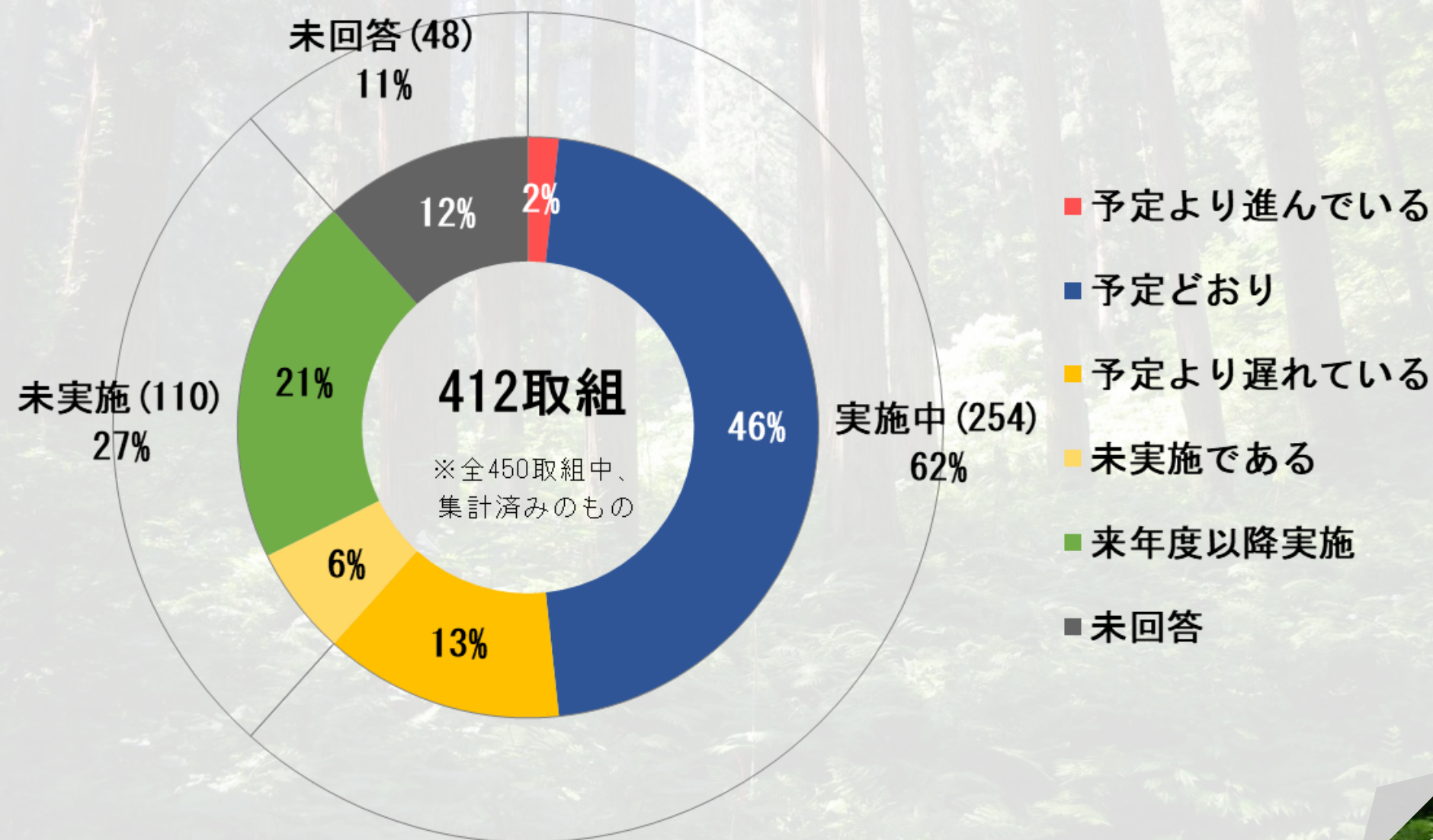
素材生産量目標のトレンド



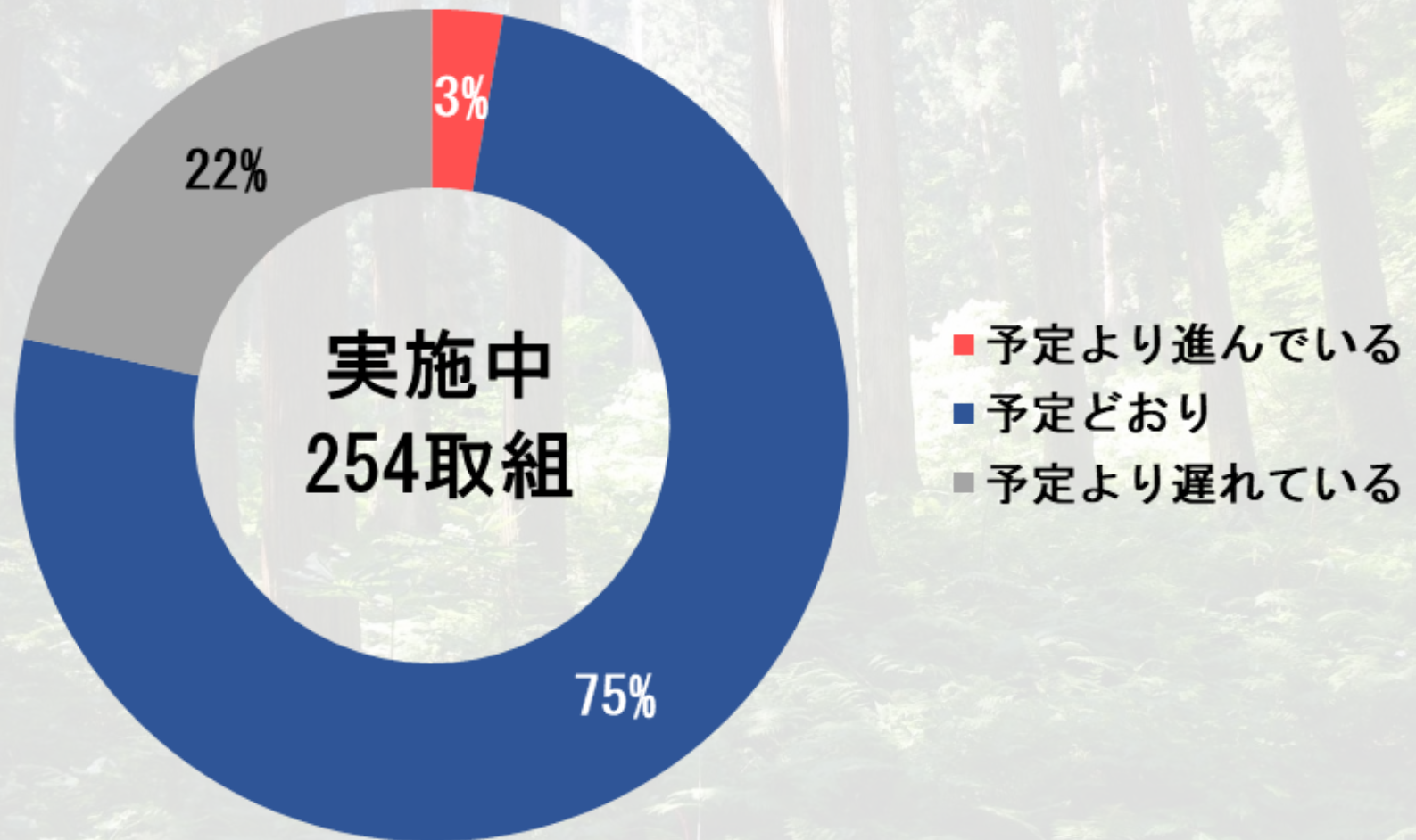
※人工林面積や、現在および目標とする素材生産量が把握できていない地域を除く



取組全体の進捗状況



実施中の取組の状況



新しい考え方や仕組みづくりが必要な取組は試行錯誤が必要



取組内容	件数
意欲と能力のある林業経営者の育成	9
需給情報の共有のための、情報通信技術等新たな技術の活用	7
高性能林業機械の導入支援	5
製品ブランド化（認証材・地域産材・JAS材等）	4
簡素で効率的なサプライチェーンの構築／コーディネータの育成	4

取組を実現するために必要なこと

目標が明確で、ロードマップが描けている。

地域全体の発展を目指すことを共通認識として行動している。

地域の関係者との信頼関係が築けている。

地域のトップが取組に積極的に関わっている。

キーマンとなる者が特定できており、その役割を果たしている。

協議会・部会に決定権者（社長・部長級）が参加している。

選定される以前からの独自の取組を大切にしている。

民間と行政が自身の役割を十分に認識している。

自らの担当に対する当事者意識が強い。

次世代を担う若手が参加している。

外部に対して積極的に発信している。



4つのトップランナー地域



トップランナー4地域の特徴



静岡県浜松地域

● ポイント

「森林資源の循環利用+ONE」として、従来の循環利用に、「創る（イノベーション）」という新たなプロセスを導入している。

● 特徴的な取組

- 都市部をターゲットとした地産外消事業
- Next Generation Next Vision ワーキング（異業種の若手連携による人材育成） など



和歌山県田辺地域

● ポイント

生産から流通までを一体として捉えた新たなシステムの構築により、地域（地元）への利益還元を目指している。

● 特徴的な取組

- 高性能林業機械の導入（フルトレーラー等）
- 木材SCMシステムの試験運用 など

トップランナー4地域の特徴



鳥取県日南町・中央中国山地地域

- ポイント

「木材のカスケード利用」と「人材育成」を2本柱とした中山間地域における持続可能なモデル林業を目指している。

- 特徴的な取組

- 不在村地主等山林集約化事業
- 林業アカデミー整備事業
- 森林カスケード新マテリアル開発事業 など



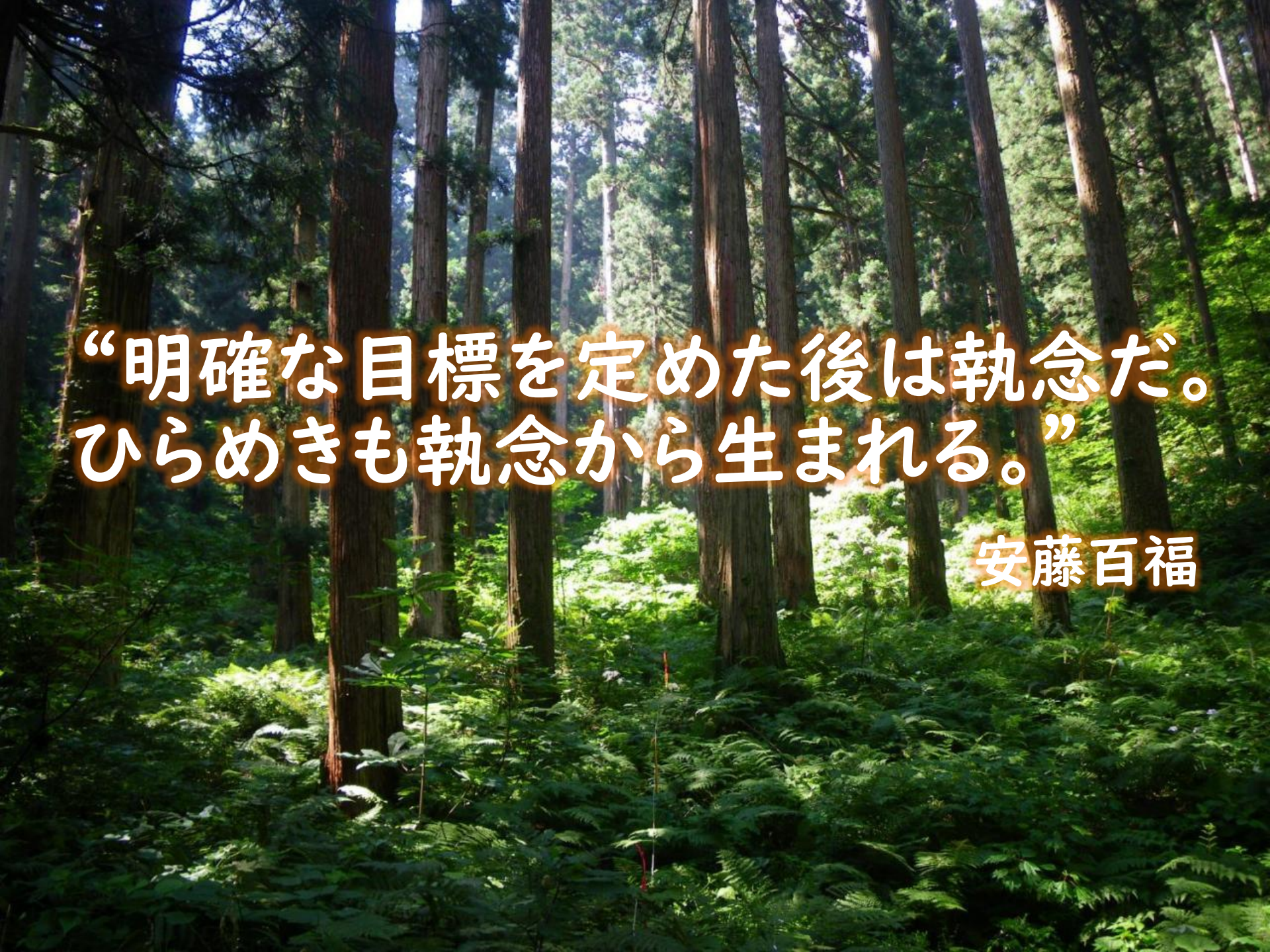
愛媛県久万高原町地域

- ポイント

産官学が一体となり、物流・商流までを一元管理する「地域総合商社」を柱とした持続的かつ適正な利益還元の実現を目指している。

- 特徴的な取組

- 地域総合商社の創設
- 森林管理への新技術の導入（ドローンによる森林資源計測システムの開発） など



“明確な目標を定めた後は執念だ。
ひらめきも執念から生まれる。”

安藤百福